学力向上通信　Vol. 11
「三重の学-Viva!!（まなびば）」

９月号

三重の学Viva!!

9
2015

発行者：三重県教育委員会
「学力向上緊急対策チーム」
連絡先：研修推進課
TEL：059-226-3572

※学-Viva：「Viva」は，「生きる」という動詞から生まれた言葉です。三重の「学び場」が生き生きするイメージで名付けました。

◆特集◆　全国学力・学習状況調査の結果が公表されました！

平成 27 年度「全国学力・学習状況調査」の結果が文部科学省より公表されました。

全教科で全国の平均正答率を下回っていますが、昨年度大きな課題が見られた「小学校国語」や「小学校算数」を含め、１０教科中９教科で全国平均正答率との差が前回より縮まり、**小中学校ともに「改善の兆し」**が見られました。

特に、「小学校国語 B」や「中学校数学 A」は、ほぼ全国水準となりました。また、小学校の４教科（国語 B、算数 A、算数 B、理科）では、調査始まって以来、**全国平均正答率との差が最も縮まりました。**これは、全国的に見ても**トップクラスの伸び**です。

この１年間、子どもたちの「頑張り」はもちろんのこと、校長や教職員・家庭・地域が一体となり学力向上に向けて取り組んできた「成果」が表われはじめ、**「やればできる」**ということが実感できる結果となりました。みんなの頑張りの結晶！です。

全国平均まで
あと一歩!!

各教科の平均正答率

		国語		算数・数学		4 教科	理科	5 教科
		国語 A	国語 B	算数 A 数学 A	算数 B 数学 B			
小学校	全国 平均正答率	70.0	65.4	75.2	45.0	63.9	60.8	63.3
小学校	**三重県** 平均正答率 (差)	**68.0** (－2.0)	**65.3** (－0.1)	**74.8** (－0.4)	**44.1** (－0.9)	63.1 (－0.8)	59.2 (－1.6)	62.3 (－1.0)
小学校	平成 26 年度全国 平均正答率との差	－3.3	－3.3	－1.9	－2.2	－2.6		
中学校	全国 平均正答率	75.8	65.8	64.4	41.6	61.9	53.0	60.1
中学校	**三重県** 平均正答率 (差)	**75.0** (－0.8)	**64.3** (－1.5)	**64.3** (－0.1)	**40.6** (－1.0)	61.1 (－0.8)	51.9 (－1.1)	59.2 (－0.9)
中学校	平成 26 年度全国 平均正答率との差	－1.4	－2.0	－0.3	－1.5	－1.3		

□ は、全国平均正答率との差が〈－１．０〉未満の教科　※理科については平成 24 年度全国平均正答率との差

平均無解答率についても、10 教科全てにおいて**大幅に改善され**、過半数の 6 教科で全国平均との差が調査が始まって以来最も良好となり、粘り強く取り組む子どもたちの頑張りが見られる結果となりました。

さらにはこんな改善点も！

学校・家庭・地域の意識の高まり！

児童生徒・学校質問紙調査結果にも一定の改善が見られます。

●●**児童生徒質問紙**及び**学校質問紙**調査における主な項目の結果●●

	質　問　項　目		平成 26 年度	平成 27 年度	
児童生徒質問紙	授業のはじめに**目標（めあて・ねらい）**が示されていたと思う 「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合	児童	75.7	83.0	★
		生徒	62.1	75.5	★
	授業の最後に**学習内容を振り返る活動**をよく行っていたと思う 「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合	児童	67.1	71.4	
		生徒	51.4	58.3	★
	家で、自分で**計画を立てて勉強**をしている 「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合	児童	59.4	60.5	
		生徒	47.3	51.0	
	家で、学校の**宿題**をしている 「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合	児童	97.3	97.3	
		生徒	87.7	90.9	
学校質問紙	授業の冒頭で**目標（めあて・ねらい）**を児童生徒に示す活動を計画的に取り入れている 「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合	小学校	91.3	97.8	★
		中学校	88.3	87.6	
	授業の最後に**学習したことを振り返る活動**を計画的に取り入れている 「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合	小学校	76.3	89.9	★
		中学校	84.5	87.5	
	校長は、**校内の授業**をどの程度見て回っているか 「ほぼ毎日」「週に２～３日程度」と回答した割合	小学校	84.5	95.4	★
		中学校	69.2	81.4	★
	平成 26 年度全国学力・学習状況調査の自校の**分析**について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために**活用**したか 「よく行った」「行った」と回答した割合	小学校	92.9	98.1	★
		中学校	91.4	94.4	

★が付いている項目は、平成 26 年度より〈＋５〉以上の改善が見られた項目

この他にも、学校図書館の活用についての質問項目でも改善されています。学習指導要領が改訂され、言語活動の充実等への理解が進んだことや、学校図書館が計画的に授業で活用されていること、司書の派遣が継続して実施されていることなどがその理由と考えられます。

テレビ等の視聴時間の減少とともに、家庭での学習習慣について、主体的な学習（計画的な学習、予習・復習）を行っている児童生徒の割合の増加が見られ、家庭での過ごし方にも改善が見られます。

しかしながら、依然として、**全ての教科において全国の平均正答率を下回っている**という状況にあります。また、スマートフォンの使用時間の増加が著しく、このことが家庭での学習時間にも影響していると考えられます。

今回の結果をもとに、学校・家庭・地域が一体となり、学力向上につながる取組を今後もさらに進めていきましょう。

平成 27 年度第 2 回公立小中学校長研修会を開催しました！

～　８月６日（木）三重県総合文化センター　中ホール　他　～

県内の小中学校長、市町等教育委員会事務局職員等あわせて４９５名が参加しました。
はじめに、三重県教育委員会山口教育長より挨拶がありました。

- 岩手県でのいじめ事案を受けて、校内を再チェックしていただきたい。
- 教育は社会から無縁ではない。情報共有をお願いしたい。
- 教育の動向について、一歩先んじた情報共有をお願いしたい。
- ８月 25 日の全国学力・学習状況調査の結果を、今後の学校運営の改善に生かしてほしい。

次に、三重県教育委員会特別顧問　貝ノ瀬　滋　氏より「学校・家庭・地域が一体となった学校づくり」と題し、ご講演いただきました。

～ 講演概要 ～

- 学校・家庭・地域がそれぞれの機能を生かして連携していく上で大切なことは、「地域の中にある学校・家庭」という考えに立ち、同じベクトルで教育を進めていくことである。
- 私たちを取り巻く環境の変化は、危機的な状況である。それを救うのは人材育成しかない。今求められる人材は、「知識があること」や「心がタフであること」、「ねばり強いこと」、「イノベーション能力等を身に付けていること」である。
- 全国学力・学習状況調査の三重県の結果は危機的な状況と捉え、改革意識を持たなければならない。学力の向上のためには、学校だけで取り組むのではなく、家庭や地域を巻き込んでいくことが必要である。
- コミュニティ・スクールは「学力向上」や「健全育成」、「市民力の向上」、「教員の成長」等に効果がある。

午後からは４つの分科会に分かれ、それぞれのテーマにおいて実践事例報告や意見交流、グループ討議等を行いました。どの分科会においても、熱心にメモを取りながら話を聞く姿が見られたり、白熱した討議がなされたりしていました。

- **第１分科会　「開かれた学校づくり」**
- **第２分科会　「道徳教育」**
- **第３分科会　「学力向上」**
- **第４分科会　「生徒指導」**

今後も、引き続き、子どもたちの学力向上等に向けて、地域とともにある学校づくりや校長のリーダーシップによる円滑な学校運営が期待されます。

●「みえスタディ・チェック」が実施されます●

児童生徒が主体的に学習に取り組む意欲を育むとともに、授業改善や個に応じた指導の充実、各学校における組織的かつ継続的な PDCA サイクルを確立するための取組の１つとして、「みえスタディ・チェック」が実施されます。

実施日	１０月 21 日（水）	
対象学年	【小学校】４年生・５年生	【中学校】１年生・２年生
実施教科	【小学校】国語、算数、理科	【中学校】国語、数学、理科
実施時間	【小学校】１教科４０分	【中学校】１教科４５分

結果を活用して早期の授業改善に役立てましょう!!

- 平成２８年２月３日（水）にも、小学校５年生、中学校２年生を対象に「みえスタディ・チェック」（国語、算数・数学）が実施されます。

学力向上に向けた

具体的な実践事例

【事例８】伊勢市立明倫小学校

自分の思いや考えを伝える子どもの育成

昨年度まで主に算数科の授業実践に取り組んできました。「算数が楽しい」、「分かるって面白い」という声が聞かれるようになり、もっとやりたいと意欲的に学習活動に取り組む子どもが増えてきましたが、文章問題の読解力に課題が見受けられました。

そこで、本年度より言語活動の充実に向け、国語科の授業実践にも取り組んでいます。

授業改善に向けて

■ **講師による継続的な指導助言** ➡ 研究授業の指導案検討や事後検討 ＋ 日常の授業を参観後、個別指導 ➡ **授業力の向上**

■ **学習課題づくり　～ 子どもたちの困り感に視点を当てて ～**

- 子どもたちがどのように課題を解いていくのか見通しを立てる
- 子どもたちがどこでつまずき、困るかという視点を大切にする

■ **スパイラル学習の取組　～ 単元のつながりを大切にして ～**

- 単元の系統図を作成　→　単元のつながりを意識した指導案
- 既習内容を活用した学習活動
- これからの単元を見通した授業づくり

■ **子どもたちの学習状況及び傾向を把握**

- 学力向上アドバイザーから全国学力・学習状況調査結果の活用方法等について指導
  → 日々の教育活動に活かす
- ※目標基準準拠検査（CRT）結果の分析と活用　※「基礎的・基本的な内容」の定着状況を適切に把握できるように作成された検査

➡ **課題解決を目指した授業改善と研究**

学校全体での取組

■ **授業スタイルの共通理解**

● **「子どもたちが自ら見通しを持って問題解決にあたる授業」**

- 授業のめあてを明確にした課題の設定
- 子どもたちどうしが意見を交流する場を設定
- 適用問題（基礎問題の応用）で、授業での学習を確かなものに！
- 「振り返り」の時間を確保

■ **授業規律の確立**

● **教員自らが子どもたちへの関わり方を振り返る**

- お互いを見て話し合いをさせているか
- 指名したとき「はい」と返事をさせているか
- 発言は主語、述語をいれた文章の形で行わせているか

などを大切にした日々の授業

伊勢市立明倫小学校長からのコメント

全国学力・学習状況調査等の結果を分析し、子どもたちの学習状況や傾向、課題を把握しています。それらをもとに、発達段階や学級の実態に応じた実践・検証を行い、個別の課題がある児童一人ひとりを大切にした、授業づくり及び学級づくりに努めています。また、教員が互いの授業を参観し合うことや、授業や子どもの様子について語り合うことが日常的に行われ、意欲的に授業力の向上に取り組んでいます。

自分の思いや考えを出し合ったり、友だちの意見をしっかり聞いて考え、学び合ったりしている子どもの姿が、授業の中で多く見られるようになってきました。